

3-4 人との関わりの面からみた課題

(1) 治水機能を維持するための施設管理を行う

① 堤防の適正な利用に努めること

土岐川庄内川の堤防の約8割は一般車両が通過する道路として兼用されており、特に下流部では市街地を避ける迂回路として利用されています。

そのため、多くの大型車両の通過や、設置されるガードレールなどの道路付属物による負荷が、堤防の弱体化を招いています。

東海豪雨時にはそれらの負荷が原因で堤防が崩れている実態を考えると、堤防を道路として利用することは望ましくありません。

堤防本来の機能を維持していくためには、堤防道路のあり方を検討していく必要があります。

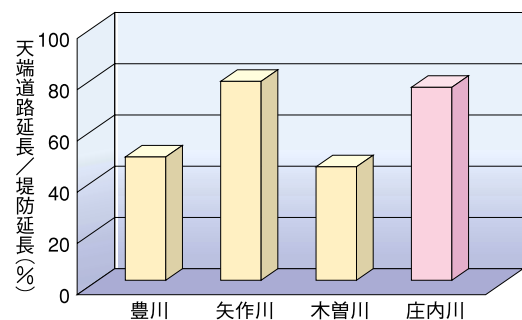


●東海豪雨で崩壊した法面状況(矢田川2.0K付近)



●庄内新川橋東詰交差点の状況(0.5K付近)

堤防道路割合



③ 堤防上の占用家屋の移転を促進すること

土岐川庄内川の堤防には、家屋やゴルフ場の事務所、自動車学校の校舎などが占用している区間があり、堤防整備など河川改修工事や水防活動などの河川管理の支障となるため、居住者、家屋所有者、企業などの理解を得ながら、順次移転を進める必要があります。

水害から流域住民の生活を守るといふ堤防本来の機能の確保や、公共用財産の適正な管理の観点から、これらの措置を行なうことが重要です。



(2) 治水を念頭に置いた高水敷利用を行う

① 公共空間としての適正な利用を促進すること

土岐川庄内川の高水敷は官地と民有地の割合が半々で、5割が公園やグラウンド等に利用されています。また、官地はゴルフ場や自動車学校などとして、民有地は畑、竹林、ゴルフ練習場、学校の野球場などとして活用されています。

河川敷が公共空間、公共用財産であることを踏まえ、治水上の安全性を確保しつつ流域住民のニーズに応じた良質な公共サービスを提供できる場にするためには、沿川自治体と連携して、河川敷公園の施設利用のネットワーク化や迷惑行為禁止の徹底を行い、新たな利用ニーズにも対応していくことが重要です。

② 水防緊急時などの河川管理用通路を確保すること

東海豪雨時には、堤防上の違法駐車や堤防近傍の浸水による避難車両が水防活動の妨げになったほか、浸水した堤内側の道路の代替えとなったことによる堤防道路の大規模な渋滞や堤外アンダーパスの水没が河川巡視などに大きな支障を与えました。

また、平常時においても、交通量が多いために通常の河川巡視に支障をきたしており、河川整備のための一時的な通行止めも難しい状況です。

近隣の交通網を含めた検討を行い、河川の維持管理や水防活動を行う河川管理用の通路として、堤防本来の機能を確保できる様にする必要があります。



●下之一色地区の水防活動の様子(平成12年東海豪雨)

●平常時の堤外アンダーパスの様子



●洪水時の枇杷島地区の様子(平成12年東海豪雨)

高水敷の利用状況



●矢田川合流点付近(17.0km付近)
本川:グラウンド(名古屋市)
矢田川:自動車学校(民間)
ゴルフ場(民間)



●豊公橋付近(11.0km付近):畑地



●新川新堰付近(19.0km付近):グラウンド(名古屋市)

